

## 平成26年度「新入生の生活に関する調査」

### 第4回 「どのような新入生と保護者が、奨学金を認知・希望しているか」

前回は「大学卒業後の進路展望と保護者の関与」についてご報告いたしました。その中で、子どもの就職や将来の進路に対する保護者の関与の高さが示され、新入生だけでなく保護者の存在も視野に入れた支援が必要となることが明らかとなりました。そこで、今回は新入生と保護者の奨学金の認知や希望についてご報告したいと思います。また、今年度で新入生の生活に関する調査は4年目を迎えます。奨学金の受給経験・認知・希望について、過去3年のデータとの比較を行いました。合わせてご覧ください。

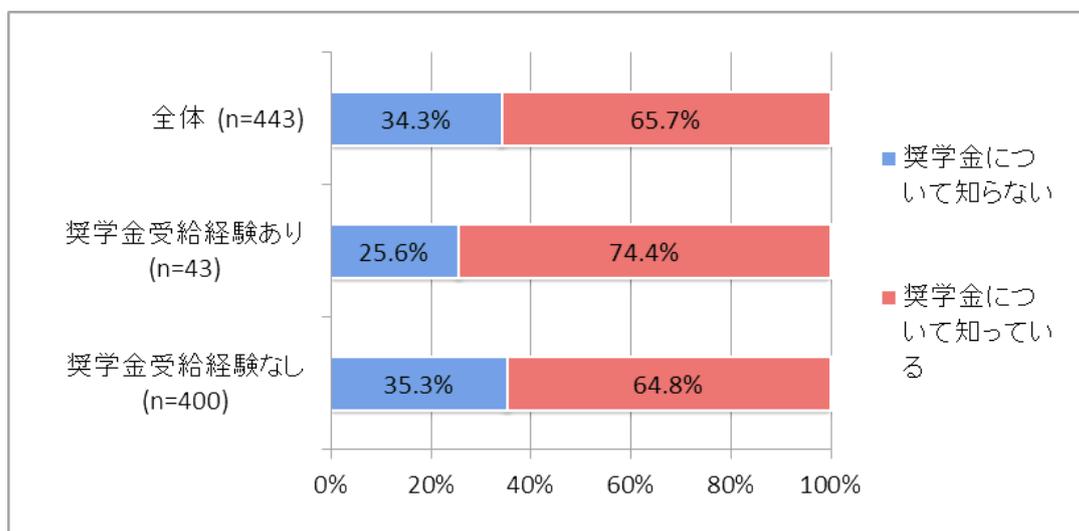
#### 1. 新入生の結果

##### (1) 過去に奨学金の受給経験がある者ほど、奨学金の認知度が高い

まず新入生の奨学金の認知度を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者とならない者とで、奨学金の認知度が異なるかを調べました。

その結果、全体では65.7%の新入生が奨学金について認知していることがわかりました。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金の認知度が高く(74.4%)、これまでに奨学金を受給した経験のない場合は、奨学金の認知度が低い(64.8%)ことがわかりました。これは昨年度と同様の結果ではあります。

奨学金受給経験と奨学金の認知 (報告書 p.50)



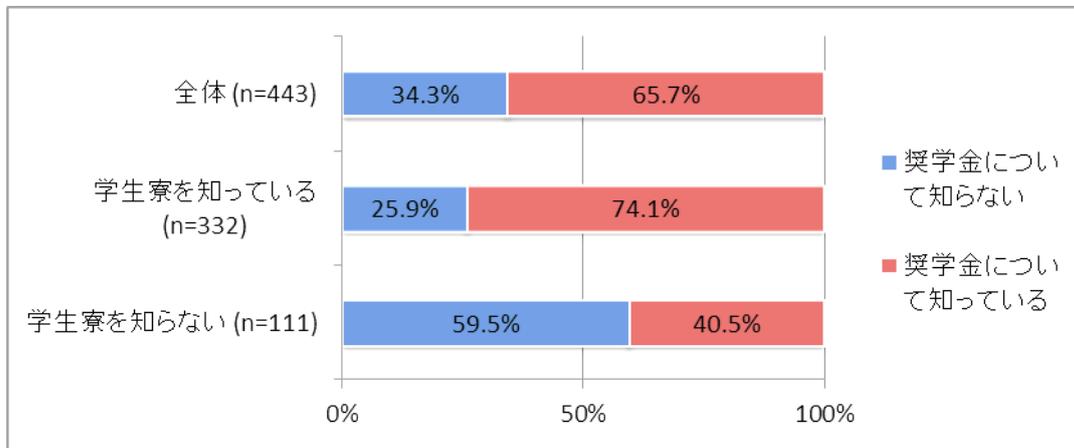
##### (2) 学生寮を知っている者ほど、奨学金の認知度が高い

次に、学生寮の認知と奨学金の認知に、関連があるかを調べました。

その結果、学生寮について認知している場合は、奨学金の認知度が高く(74.1%)、学生寮について認知していない場合は、奨学金の認知度が低い(40.5%)ことがわかりました。これは昨年度と同様の結果であり、学生寮という学生生活の支援に関心がある者は、奨学金の認知度も高いことが示されました。また昨年度と比べ、奨学金についてと学生寮について、ともに「知らない

い」と回答している者の割合が、昨年度が52.0%であったのに対し、今年度は59.5%と増加している。奨学金と学生寮について、必要としている者に、情報が届くようにしていくことが求めると考えられます。

学生寮の認知と奨学金の認知（報告書 p.52）



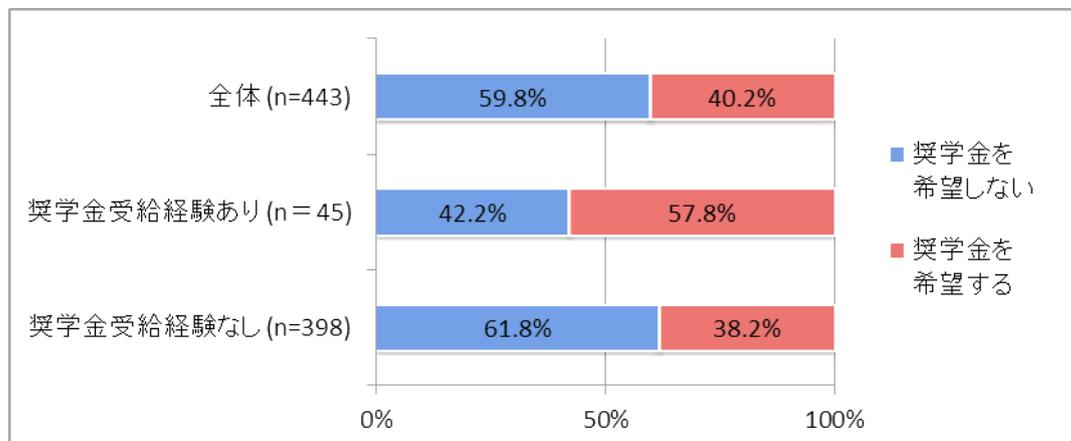
## 2. 保護者の結果

### (1) 過去に奨学金受給経験がある者ほど、奨学金を希望する割合が高い

次に、保護者の奨学金の希望の有無を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者となない者として、奨学金の希望の有無に違いがあるかを調べました。

その結果、全体では、40.2%の保護者が奨学金を希望していることがわかりました。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金を希望する割合が高く、これまでに奨学金を受給した経験がない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果ではありますが、これまでに奨学金を受給した経験のある者で、奨学金を希望する者の割合は、昨年度が65.6%だったのに対して、今年度は57.8%と少なくなっています。これは一昨年（80.6%）と比べ、徐々に少なくなっていることがわかります。

奨学金受給経験と奨学金の希望（報告書 p.54）

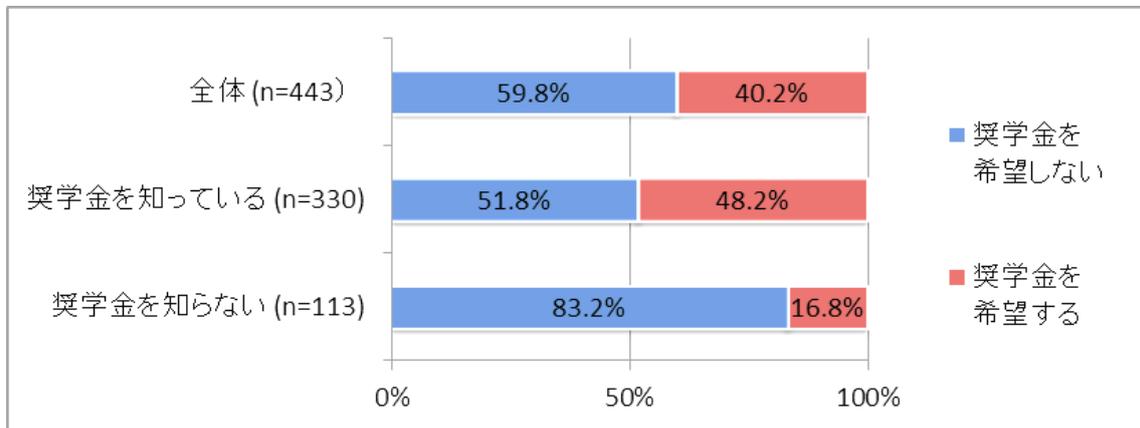


### (2) 奨学金について認知している者ほど、奨学金を希望する割合が高い

奨学金の認知と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、奨学金について認知している場合は、奨学金を希望する割合が高く、奨学金について認知していない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果であります。

奨学金の認知と希望（報告書 p. 54）

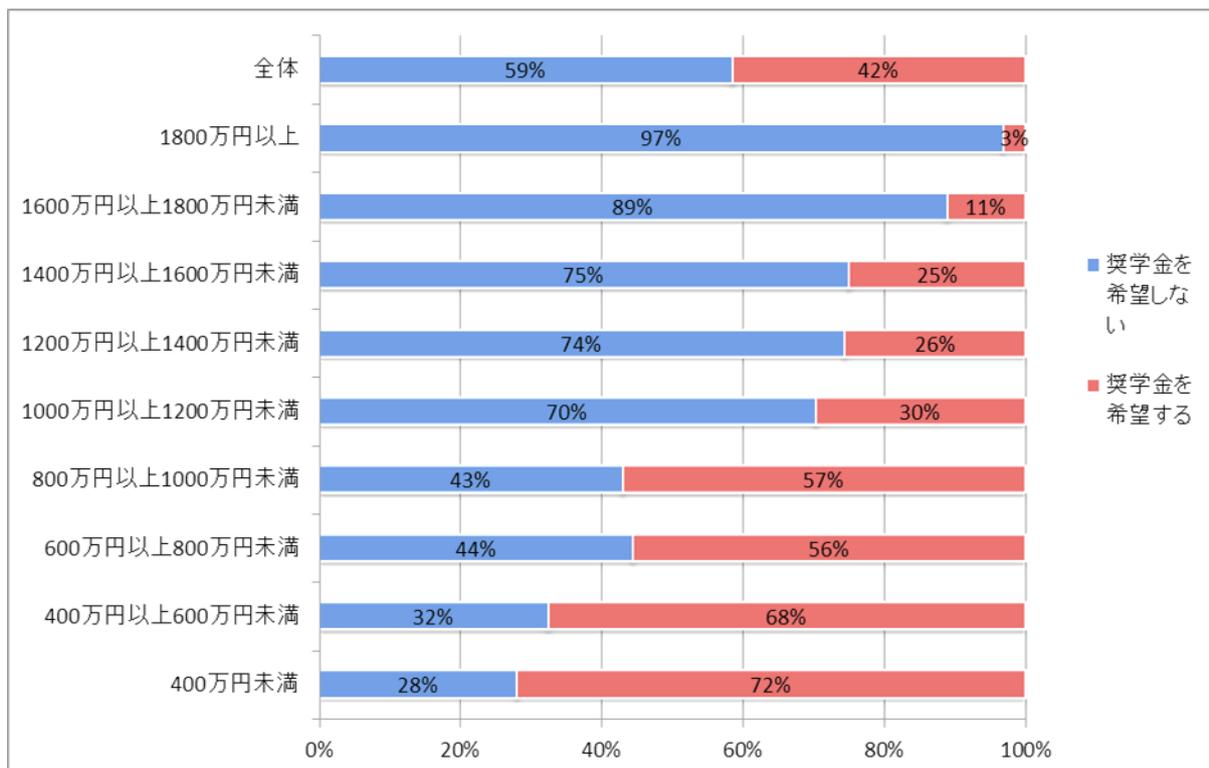


### (3) 世帯年収が少ないほど、奨学金を希望する割合が高い

世帯年収と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、世帯年収が少ない場合は、奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果でした。

世帯年収と奨学金の希望（報告書 p. 55）

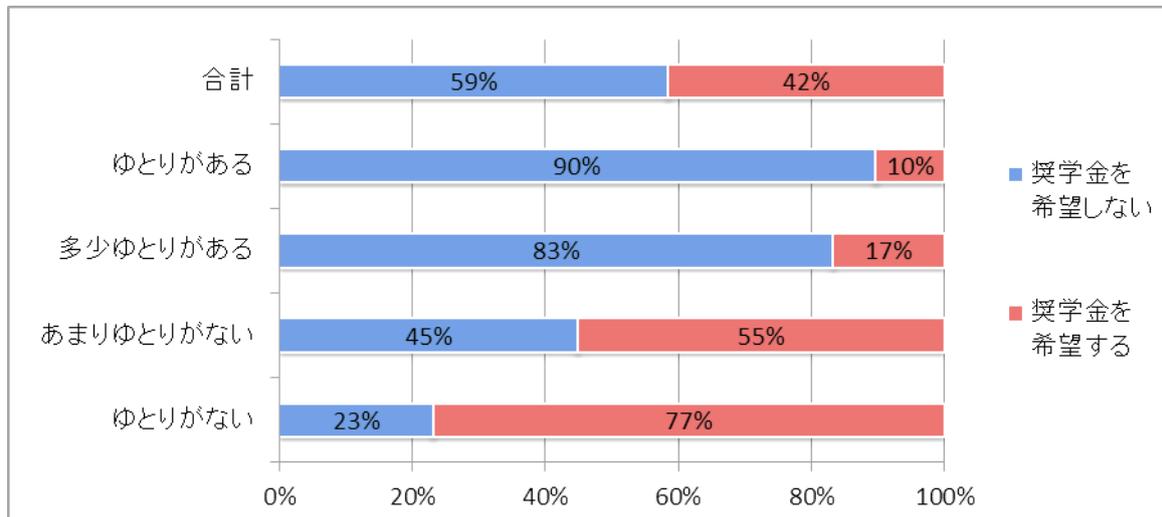


#### (4) 入学後の暮らし向きに余裕がないほど、奨学金を希望する割合が高い

入学後の暮らし向きと奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、奨学金を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果でした。

入学後の暮らし向きと奨学金の希望（報告書 p.57）

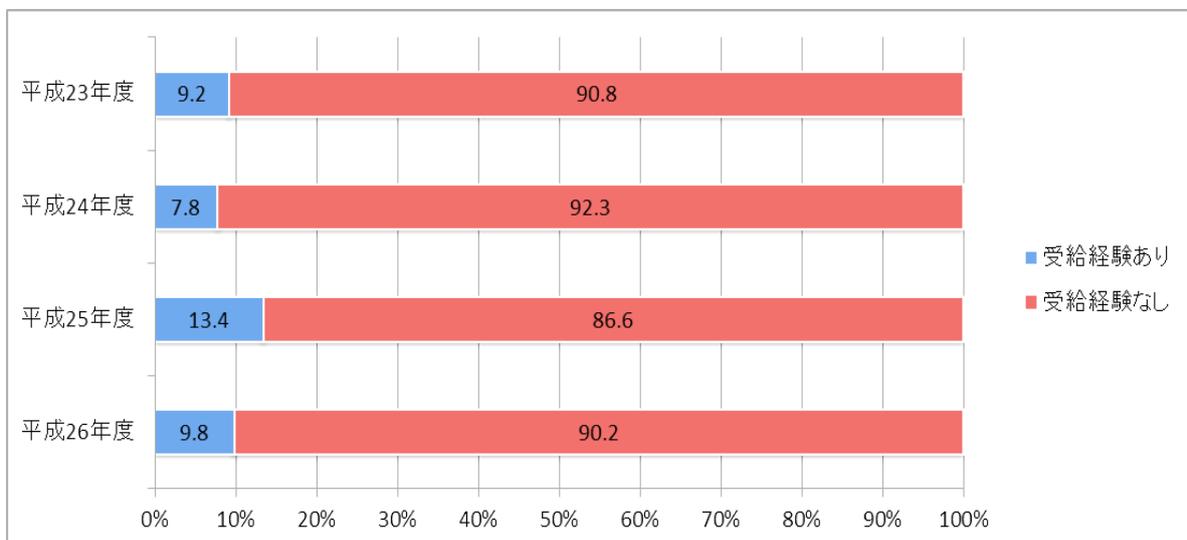


### 3. 奨学金の受給経験・認知・希望について、4年間の比較

#### (1) 新入生の奨学金受給経験について

新入生の「奨学金の受給経験」の割合は、今年度は「受給経験あり」9.8%、「受給経験なし」90.2%となっており、昨年度と比べて奨学金の受給経験がある者の割合は3.6ポイント減少していることがわかりました。過去3年と比較した場合、昨年度は受給経験のある者が10%を超えていましたが、それ以前は今年度と同様に10%未満であることがわかりました。

新入生の奨学金受給経験の比較（報告書 p.65）

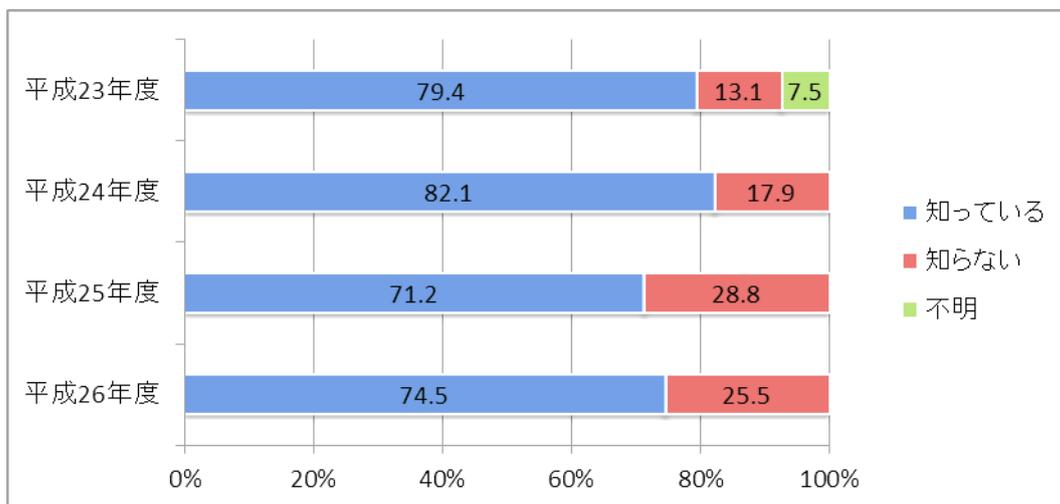


## (2) 保護者の奨学金認知と希望について

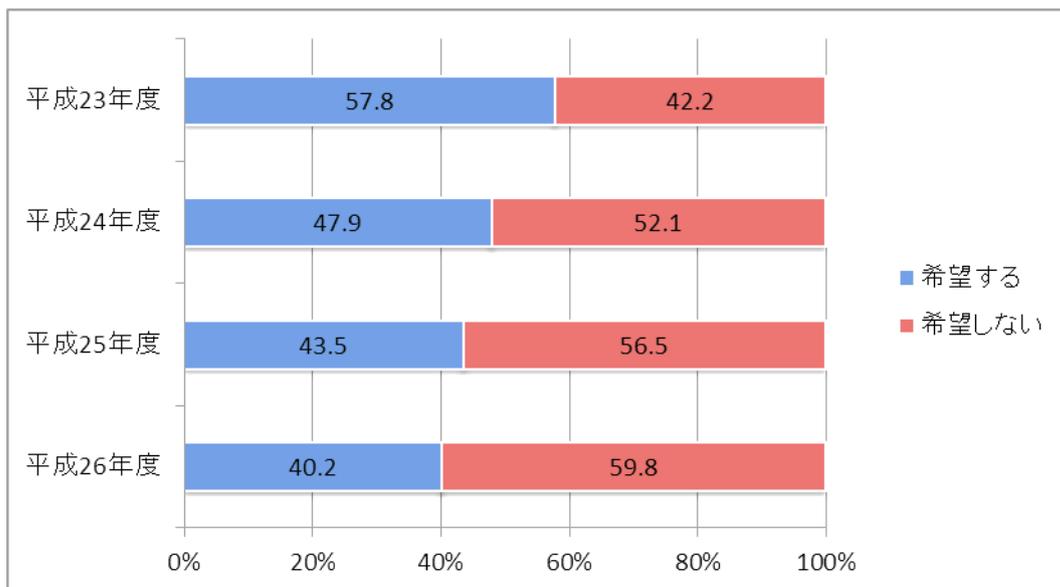
保護者の「奨学金認知」の割合は、毎年75%前後の割合で認知されていることがわかります。これは質問票の間13について、一つでも〇をつけた者を「知っている」としているため、個人によって知っている奨学金の数にはばらつきがあります。

「奨学金の希望」の割合は、今年度は「希望する」40.2%、「希望しない」59.8%となっており、昨年度の「希望する」43.5%、「希望しない」56.5%に比べると、希望する割合は3.3ポイント減少していることがわかりました。過去3年と比較した場合、年度ごとに希望する割合が減少していることがわかります。平成23年度に比べると17.6ポイント減少しています。平成23年は東日本大震災があり、緊急支援を含め奨学金のニーズが高まったことが予想されます。

保護者の奨学金認知の比較（報告書 p.66）



保護者の奨学金希望の比較（報告書 p. 65）



今回は、  
「どのような新入生と保護者が、学生寮を認知・  
希望しているか」についてご報告します。



「学生・キャリア支援センター*Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPot  
からもPDF形式でダウンロードいただけます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）